第１鍼灸学科 午後コース・第２鍼灸学科 夜間コース　授業科目一覧表

教育内容		授業科目	授業形態	時間数	必修単位	実務経験のある教員による授業科目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	自然科学	講義	30	2	
		健康の科学	講義	30	2	
		情報処理	講義	30	2	
		外国語	講義	30	2	
		倫理学	講義	30	2	
		心理学	講義	30	2	
		社会学	講義	30	2	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能　Ⅰ－１	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅰ－２	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅰ－３	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅱ－１	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅱ－２	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅱ－３	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅲ－１	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅲ－２	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅲ－３	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅳ－１	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅳ－２	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅳ－３	講義	30	1	
		人体の構造と機能　Ⅴ	講義	30	1	
		運動学	講義	30	1	
	疾病の成り立ち、予防 及び回復の促進	病理学概論Ⅰ	講義	30	1	
		病理学概論Ⅱ	講義	30	1	
		衛生学・公衆衛生学Ⅰ	講義	30	1	
		衛生学・公衆衛生学Ⅱ	講義	30	1	
		リハビリテーション医学	講義	30	2	
		臨床医学論Ⅰ	講義	30	1	
		臨床医学論Ⅱ	講義	30	1	
		臨床医学論Ⅲ	講義	30	1	
		臨床医学論Ⅳ	講義	30	1	
		臨床医学論Ⅴ	講義	30	1	
		臨床医学論Ⅵ	講義	30	1	
		臨床医学論Ⅶ	講義	30	1	
	保健医療福祉と はり きゅうの理念	医療概論	演習	30	2	
		関係法規	講義	30	1	
専門分野	基礎はりきゅう学	はりきゅう基礎学	講義	30	1	●
		経絡経穴概論Ⅰ	講義	60	2	●
		経絡経穴概論Ⅱ	講義	60	2	●
		東洋医学概論Ⅰ	講義	30	1	●
		東洋医学概論Ⅱ	講義	30	1	●
		東洋医学概論Ⅲ	講義	30	1	●
		鍼灸概論	講義	30	1	●
	臨床はりきゅう学	東洋医学臨床論Ⅰ	講義	30	1	●
		東洋医学臨床論Ⅱ	講義	30	1	●
		東洋医学臨床論Ⅲ	講義	30	1	●
		東洋医学臨床論Ⅳ	講義	30	1	●
		東洋医学臨床論Ⅴ	講義	30	1	●
		東洋鍼灸臨床学	講義	30	1	●
		専門鍼灸臨床学	講義	30	1	●
		臨床鍼灸特論	講義	30	1	●
		鍼灸理論Ⅰ	講義	30	1	●
		鍼灸理論Ⅱ	講義	30	1	●
		基礎東洋医学治療論	講義	30	1	●
		鍼灸応用演習Ⅰ	演習	30	1	●
		鍼灸応用演習Ⅱ	演習	30	1	●
	社会はりきゅう学	臨床コミュニケーション学	演習	30	1	●
		社会はりきゅう学	講義	30	1	●
	実習	はり実技Ⅰ	実習	30	1	●
		はり実技Ⅱ	実習	30	1	●
		きゅう実技Ⅰ	実習	30	1	●
		きゅう実技Ⅱ	実習	30	1	●
		取穴実技Ⅰ	実習	30	1	●
		取穴実技Ⅱ	実習	30	1	●
		はりきゅう実技Ⅰ	実習	30	1	●
		はりきゅう実技Ⅱ	実習	30	1	●
		東洋医学診察実習	実習	30	1	●
		伝統応用鍼灸学実習	実習	30	1	●
		鍼灸臨床学実習Ⅰ	実習	30	1	●
		鍼灸臨床学実習Ⅱ	実習	30	1	●
		鍼灸総合実習Ⅰ	実習	30	1	●
		鍼灸総合実習Ⅱ	実習	30	1	●
		救急処置実習	実習	30	1	●
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅱ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅲ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅳ	実習	45	1	●
	総合領域	総合鍼灸医学Ⅰ	講義	30	1	
		総合鍼灸医学Ⅱ	講義	30	1	
		総合鍼灸医学Ⅲ	講義	30	1	
		総合鍼灸医学Ⅳ	講義	30	1	
		総合鍼灸医学Ⅴ	講義	30	1	
		総合鍼灸医学Ⅵ	講義	30	1	
		総合鍼灸医学Ⅶ	講義	30	1	
		総合鍼灸医学Ⅷ	講義	30	1	
		鍼灸総合演習Ⅰ	演習	30	1	●
		鍼灸総合演習Ⅱ	演習	30	1	
合　　計				2700	97	1380単位時間

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	心理学	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	無
		時間数	３０時間				
実務経験内容							
担当者	岩原　昭彦	E-mail				実施時期	３年　前期

授業の目的

脳の働きと行動の仕組みの基礎を学ぶことで、生物としての人間について知り、人間が人間たるゆえんについて考える。また、人間は社会性をもった存在であるがゆえに、その心のあり様には他者や環境からの影響を大きく受けている。人間の行動の特徴を心理社会的側面から理解し、心理的支援や対人関係の構築に関わる基礎的なスキルを獲得する。

到達目標

心の健康を増進するための方法について理解することを目指す。具体的には、①心の仕組みについて理解すること、②自己と他者について理解すること、③心の健康に関わる理論について説明できること、③ライフステージやフィールドに対応した心の健康を高めるための方法について説明できることを到達目標とする。

授業の内容

本講義では心の健康について、生物-心理-社会モデルから考える。前半は人間の心の仕組みと脳の健康について考えてみたい。後半では生理学的機能についても触れながら、心の健康について、心理社会的要因をベースに考えてみたい。人間の心の働きや心の健康問題を通して幸福とは何かについても考察する。

注意事項

授業時間数の２／３以上の出席がないと受験資格を認めません。

成績評価

ミニレポート課題と期末試験から総合的に評価します。

テキスト

テキストは使用しません。資料を配付します。

参考文献・図書

適宜に紹介します。

オフィスアワーについて

曜日：　木曜日

時間：　授業終了後

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	感覚と知覚 1ー知覚のメカニズム	人間が人間たるゆえんは何であるのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	知覚情報処理過程の基礎について学ぶ	
2	授業内容	感覚と知覚 2ー幻覚と錯覚	人間の認知機能が歪みやすいことと環境に適応することの関係性について考える
	到達目標	認知機能の主観性と歪みについて理解する	
3	授業内容	学習と記憶 1ー学習・記憶のメカニズム	記憶力を高めるためにはどうすればよいのかについて考え、自分にあった学習法について知る
	到達目標	記憶のしくみについて学ぶ	
4	授業内容	学習と記憶 2ー記憶障害・特異な記憶力	記憶を失うことが私達に与える影響について考え、自分という存在の実態を感じる
	到達目標	認知機能の障害について理解する	
5	授業内容	言語と思考 1ー問題解決	人間はなぜ誤りを犯しやすいのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	思考のしくみと歪みについて学ぶ	
6	授業内容	言語と思考 2ー推論	直感的に思考することの効用や否定的な思考を修正する方法について考える
	到達目標	思考の柔軟性や肯定的な思考のあり方を理解する	
7	授業内容	感情と社会性 1ー社会的認知と感情	豊かな対人関係を構築するためにはどうすれはいいのかについて考える
	到達目標	感情の生起メカニズムと対人関係について学ぶ	
8	授業内容	感情と社会性 2ー社会性の障害	誤解がなぜ生じるのかについて考えるとともに他者に共感することの意味について考える
	到達目標	コミュニケーション障害と発達障害について理解する	
9	授業内容	生存と適応ー生きるとは	人間が幸せな人生を送るためには何が必要なのかについて考える
	到達目標	人間が幸福に生きることの意味について理解する	
10	授業内容	ストレス 1ーストレスの生起メカニズム	なぜ同じ状況がある人にはストレスで別の人にはストレスではないのかについて考える
	到達目標	ストレスが生じる仕組みについて学ぶ	
11	授業内容	ストレス 2ーストレス対処	ストレスを対処するための方法を理解したうえで、自分に適したストレス対処法を考える
	到達目標	ストレス社会を生き抜くためのスキルについて理解する	
12	授業内容	ライフスタイルと健康ー食生活と運動習慣	食習慣を変更したり、運動習慣を確立したりすることがなぜ難しいのかについて考える
	到達目標	生活習慣が形成される心理学的メカニズムについて学ぶ	
13	授業内容	健康増進行動 1ー健康行動の変容	分かってはいるのに不健康な習慣を変えられないのはなぜかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することの難しさについて学ぶ	
14	授業内容	健康増進行動 2ー健康心理学的支援	健康的な生活習慣を確立するためにはどのような支援をする必要があるかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することを支援する方法について学ぶ	
15	授業内容	ポジティブ・ヘルスーポジティブ心理学と健康	ポジティブ志向がなぜ健康を増進するのかを理解し、自分に適した実践方法を考える
	到達目標	ポジティブ心理学的な介入法について理解する	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	社会学	単位数	２単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	３０時間				
実務経験内容							
担当者	坂部　昌明	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的

　この講義では、日本社会に生きる一個人として知っておくべき事柄について整理していただきます。そのうえで、はり師、きゅう師としてどのような考え方、態度でもってこの社会で生きていくかについて検討していただきます。

到達目標

■　社会人として知っておくべき社会事象について概説することができる。

■　自らが志向する生き方に対して、自らの意見を持つことができる。

授業の内容

　この講義では、次の項目について取り扱います。

■　ヒトについて・自由主義および功利主義

■　国家の成立・資本主義・社会主義

■　現代社会における「通貨」の意義・お金の考え方

■　現在の社会保障制度についての考え方・制度の内容

注意事項

※　期末試験の受験資格は、この授業の 2/3 以上の出席があったとみなされた時点で発生します。

※　講義は、たった一人の受講者の為に開かれるものではありません。他に、講義を受ける方がいることを認識し、ふさわしい態度で講義に臨んで下さい。

成績評価

■　出席日数が足りない者については、成績評価の対象となりません。

■　期末試験の点数を成績評価の対象とします。

テキスト

特に指定しない。配布プリント

参考文献・図書

適宜紹介する

オフィスアワーについて

講義終了後、学内にいる間は質問等にお応えします。

授業時間外の学習について

特に予習を求めませんが、復習はしっかりと行ってください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	ホモ・サピエンスからヒトへ	講義内容を復習する。
	到達目標	現代に生きる「ヒト」とは何か概説できる。	
2	授業内容	自由主義と功利主義Ⅰ	講義内容を復習する。
	到達目標	自由主義とは何か概説できる。	
3	授業内容	自由主義と功利主義Ⅱ	講義内容を復習する。
	到達目標	功利主義とは何か概説できる。	
4	授業内容	自由主義と功利主義Ⅲ	講義内容を復習する。
	到達目標	現代社会における自由の捉え方について持論がある。	
5	授業内容	国家と「フィクション（虚構）」	講義内容を復習する。
	到達目標	国家について概説できる。	
6	授業内容	資本主義	講義内容を復習する。
	到達目標	資本主義について概説できる。	
7	授業内容	社会主義	講義内容を復習する。
	到達目標	資本主義について概説できる。	
8	授業内容	「通貨」とは何か	講義内容を復習する。
	到達目標	「通貨」と社会の関係を概説できる。	
9	授業内容	「お金」の考え方Ⅰ	講義内容を復習する。
	到達目標	マネーリテラシーの基礎を理解する。	
10	授業内容	「お金」の考え方Ⅱ	講義内容を復習する。
	到達目標	「財産権」について理解する。	
11	授業内容	我が国の社会保障体制	講義内容を復習する。
	到達目標	医療・介護・福祉に関する仕組みを理解する。	
12	授業内容	医療と思想	講義内容を復習する。
	到達目標	医療に関する思想について理解する。	
13	授業内容	医療倫理と職業倫理	講義内容を復習する。
	到達目標	医療倫理と職業倫理を区別できる。	
14	授業内容	対人関係考	講義内容を復習する。
	到達目標	様々な対人場面を想定できる。	
15	授業内容	期末試験と振り返り	試験結果を見直す。
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	人体の構造と機能　Ⅴ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	田口　辰樹	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的
人体の構造と機能Ⅰ～Ⅴの総復習である。この科目はⅠ年生Ⅱ年制で習得した各項目がしっかり復習され、理解されているかを確認して習得、理解されていない項目を再度、説明して医学的知識を理解習得させ、国家試験にも対応出来得る事を目的とする。
到達目標
人体の構造と機能Ⅰ～Ⅴの総復習である。
授業の内容
人体の構造と機能Ⅰ～Ⅴの総復習である。
注意事項
※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。 ※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。
成績評価
授業出席時間が授業時間数の 2/3 に満たない場合には期末試験の受験資格がなくなる。 欠席の超過分の補講は一切行わないので注意すること。 評価対象 ①出席・受講態度（無断途中退出等）②小テスト③中間テスト④期末試験
テキスト
この授業での指定のテキストは設けていませんが、以下の参考図書を参考にしてください。
参考文献・図書
1.『プロメテウス解剖学アトラス』　医学書院 2.『解剖学講義』　南山堂 3.『生理学テキスト第７版』　文光堂 4.『イラストでまなぶ生理学第２版』　医学書院 5.『人体の正常構造と機能』　日本医事新報社 6.『健康と病気のしくみがわかる　解剖生理学』　西村書店
オフィスアワーについて
曜日：時間が空いていれば随時可能、e-mail でも対応可 時間：　　時　　分～　　時　　分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション	
	到達目標		
2	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
3	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
4	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
5	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
6	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
7	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
8	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
9	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
10	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
11	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
12	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
13	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
14	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	
15	授業内容	解剖学、生理学の復習	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	解剖学、生理学を理解する。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	リハビリテーション医学	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	池田　順一	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的
リハビリテーション・リハビリテーション医学を学び習得することにより、各種障害に対する概要を理解し、各種臨床に活かせる知識を修得することを目的とする。
到達目標
各種障害に対するリハビリテーションを理解することができる。
授業の内容
各種疾患や障害の内容に対する理解を深めるとともに、それらに対するリハビリテーションを学ぶ。
注意事項
※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。 ※受験資格：本授業の2/3以上の出席。
成績評価
授業時数の3分の2以上出席したものを評価対象とします。 期末筆記試験での評価を行います。
テキスト
リハビリテーション医学　（東洋療法学校協会）
参考文献・図書
標準リハビリテーション医学　（医学書院）
オフィスアワーについて
曜日：金曜日 時間：16時30分～17時30分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション リハビリテーションとはどのような学問かを学ぶ。	定義とノーマライゼーションの復習をしておく。
	到達目標	定義、体系、対象、構造を述べることができる。	
2	授業内容	リハビリテーション医学の概要を学ぶ。	ICIDH、ICF、分野の復習をしておく。
	到達目標	障害の捉え方、分野、地域リハを述べることができる。	
3	授業内容	障害の評価を学ぶ。	各種それぞれの評価項目、内容の復習をしておく。
	到達目標	心身機能、活動、参加、合併症の評価を述べることができる。	
4	授業内容	医学的リハビリテーションを学ぶ	理学、作業、言語聴覚、義肢装具療法について定義や方法、特徴を復習をしておく。
	到達目標	リハビリテーション治療を述べることができる。	
5	授業内容	脳卒中のリハビリテーションを学ぶ。	脳血管障害の予習をしておく。 各時期のリハビリテーションの復習をしておく。
	到達目標	評価、各時期のリハビリテーションを述べることができる。	
6	授業内容	脊髄損傷のリハビリテーションを学ぶ。	脊髄損傷の予習をしておく。 高位別の残存筋や動作、合併症などの復習をしておく。
	到達目標	各高位に対するリハビリテーションを述べることができる。	
7	授業内容	切断のリハビリテーションを学ぶ。	原因と義肢の特徴の復習をしておく。
	到達目標	原因と合併症、義肢を述べることができる。	
8	授業内容	小児のリハビリテーションを学ぶ。	脳性麻痺の予習をしておく。
	到達目標	脳性麻痺の定義、分類、を述べることができる。	
9	授業内容	骨関節疾患のリハビリテーションを学ぶ。	運動器疾患の予習をしておく。
	到達目標	評価、内容、指導を述べることができる。	
10	授業内容	末梢神経障害のリハビリテーションを学ぶ。	末梢神経障害の予習をしておく。
	到達目標	各種障害に対する装具を述べることができる。	
11	授業内容	関節リウマチのリハビリテーションを学ぶ。	関節リウマチの予習をしておく。
	到達目標	評価、内容、装具と自助具、指導を述べることができる。	
12	授業内容	肺疾患、心疾患のリハビリテーションを学ぶ。	COPD、心疾患の予習をしておく。
	到達目標	肺・心臓リハビリテーションを述べることができる。	
13	授業内容	パーキンソン病のリハビリテーションを学ぶ。	パーキンソン病の予習をしておく。
	到達目標	評価、内容、生活指導を述べることができる。	
14	授業内容	その他の神経疾患のリハビリテーションを学ぶ。	脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー、ALS の予習をしておく。
	到達目標	脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー、ALS に対するリハビリテーションの概要を述べることができる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む） 本授業の内容について確認・復習をする。	
	到達目標	本授業の内容について知識を習得している。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	関係法規	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	坂部　昌明	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的

人が社会生活を営む上において、最低限許されること・許されないことを明らかにし、守るべきことを守らなかった場合の処置を規定するものが「法」です。医療の分野においても、安心して安全な医療を享受・提供する上で関係法規は必要不可欠な学問です。近年、高齢者に関する法律や障害者を支援するための法律など社会背景を踏まえた法改正も数多く行われています。この科目では、これら医療（診療）に関係する法的な理解を深め、最低限必要な項目を修得する事を目的とします。

到達目標

あはき法の内容を理解することにより、円滑な免許取得・各種申請・業務の開始・広告が行え、また、その他医療関連法や保健衛生や福祉関連法を理解し、医療関連分野との連携を密に図れることを目指します。

授業の内容

前半のあはき法関連では、前週に配布する、次回のアクティブ・ラーニングシートの項目に関して、教科書の該当個所にラインを引く予習を行います。授業開始後 40 分は前回の解説。次の 40 分で予習したシートの完成。10 分で前回学習範囲の小テスト。復習として本日内容に関する 4 択問題 4 題を作成し次回提出。

後半の他関係法規では、予習復習項目は同じ、80 分を講義とします。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

授業内小テスト 2 点×10 回分＝20 点・提出物 2 点×10 回分＝20・期末テスト 60 点

出席点（減点法　欠席:-3 点/回、遅刻:-1 点/回、授業態度-2 点　最大 20 点減点）にて行います。

評価テスト後、正解と照らし合わせ、弱点克服レポートをスマホでデータ入力していただきます。

テキスト

医歯薬出版社　関係法規　第 7 版

参考文献・図書

特になし

オフィスアワーについて

曜日：　火曜日・木曜日

時間：16 時 20 分～17 時 50 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 法とは何か～法の分類・医療過誤とリスクマネジメント・インフォームドコンセント	予習：なし 復習：模擬問題作成と 次回小テスト内容確認
	到達目標	各用語の意味を説明できる。	
2	授業内容	あはき法（免許・試験）	予習：「免許・試験」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次回小テスト内容確認
	到達目標	免許資格要件・各種申請・施術者名簿の説明ができる。	
3	授業内容	あはき法（業務）	予習：「業務」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次回小テスト内容確認
	到達目標	施術に関する注意が説明できる。	
4	授業内容	あはき法（施術所）	予習：「施術所」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次回小テスト内容確認
	到達目標	施術所開設・構造用件・衛生上の措置・監督等が説明できる。	
5	授業内容	あはき法（広告）	予習：「広告」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次回小テスト内容確認
	到達目標	施術所名称制限・広告制限・業務停止が説明できる。	
6	授業内容	あはき法（罰則・学校養成施設・試験登録機関）	予習：「罰則など」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	罰則・入学資格・修業年限・関連機関の説明ができる。	
7	授業内容	各師会　役員先生の業務関連講義	特になし
	到達目標	鍼灸業界の現状を理解する。	
8	授業内容	医事法規と医療制度・医療法・医師法（歯科医師法）	予習：「医事法など」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	医療法・医師法（歯科医師法）の要件を説明できる。	
9	授業内容	他医療従事者の法律	予習：「他医療従事者」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	保助看師法など他医療従事者の要件を説明できる。	
10	授業内容	薬事関係法規・薬剤師法	予習：「薬事関連法等」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	医薬品医療機器等法・薬剤師法の要件を説明できる。	
11	授業内容	衛生関係法規	予習：「衛生関連法等」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	衛生関係法規の要件を説明できる。	
12	授業内容	社会福祉関係法規	予習：「福祉関連法等」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	社会福祉関係法規の要件を説明できる。	
13	授業内容	社会保険関係法規	予習：「保険関連法等」の下調べ 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	社会保険関係法規の要件を説明できる。	
14	授業内容	まとめ	予習：全プリント再確認 復習：模擬問題作成と 次々回小テスト内容確認
	到達目標	全体を通して各項目の重要点を説明できる。	
15	授業内容	評価日	復習：試験内容の検討 弱点克服レポートの入力
	到達目標	弱点を抽出して再学習できる。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	東洋医学臨床論Ⅲ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		烏丸いとう鍼灸院勤務					
担当者	伊藤　千展	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的

年齢を重ねる事により様々な疾患が現れていきます。泌尿器系や眼科領域、更に耳鼻咽喉科領域の疾患も例外ではありません。この科目では、特に泌尿器・感覚器系疾患を東洋医学の観念を含み、診察（はり・きゅうの適応の判断、病態生理学、生体観察を含む）から治療までを学習し、その西洋・東洋医学的観点からの病態把握と治療法を修得することを目的とします。

到達目標

泌尿器・生殖器系、眼科系、耳鼻咽喉科系疾患に対する現代医学的・東洋医学的な疾患概念・診察・治療について学び、臨床現場で適切に対応できる知識の修得を目指します。

授業の内容

１．授業方法は、教科書・板書・プリントを用いて講義形式で行います。

２．各項目のまとめとして、国家試験過去問を解いて解説をします。

３．自学自習（予習・復習）には教科書・プリントを活用してください。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

期末試験（100 点満点）で評価します。単位認定は 60 点以上です。

テキスト

「東洋医学臨床論＜はりきゅう編＞」　東洋療法学校協会編

「鍼灸診療コアテキスト」　明治東洋医学院専門学校編

参考文献・図書

『健康と病気のしくみがわかる　解剖生理学 改訂版』　西村書店

『内科診断学　第３版』　医学書院

『病気がみえる（腎・泌尿器）第 2 版』　泰山堂書店

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 下部尿路症状の症候・疾患の概要	下部尿路症状の概要について復習して下さい。
	到達目標	泌尿・生殖器系の症候・疾患の概要について理解できる。	
2	授業内容	蓄尿症状(過活動膀胱)	蓄尿症状について予習･復習して下さい。
	到達目標	蓄尿症状の病態と治療について理解できる。	
3	授業内容	排尿症状(前立腺肥大症)	排尿症状について予習･復習して下さい。
	到達目標	排尿症状の病態と治療について理解できる。	
4	授業内容	尿失禁・夜尿症	尿失禁・夜尿症について予習・復習して下さい。
	到達目標	尿失禁・夜尿症の病態と治療について理解できる。	
5	授業内容	膀胱痛(間質性膀胱炎)	膀胱痛について予習･復習して下さい。
	到達目標	膀胱痛の病態と治療について理解できる。	
6	授業内容	会陰部不快感(慢性前立腺炎)	会陰部不快感について予習･復習して下さい。
	到達目標	会陰部不快感の病態と治療について理解できる。	
7	授業内容	勃起障害	勃起障害について予習･復習して下さい。
	到達目標	勃起障害の病態と治療について理解できる。	
8	授業内容	視力障害	視力障害について予習･復習して下さい。
	到達目標	視力障害の病態と治療について理解できる。	
9	授業内容	眼精疲労	眼精疲労について予習･復習して下さい。
	到達目標	眼精疲労の病態と治療について理解できる。	
10	授業内容	目のアレルギー	目のアレルギーについて予習･復習して下さい。
	到達目標	目のアレルギーの病態と治療について理解できる。	
11	授業内容	耳鳴り・難聴	耳鳴り・難聴について予習・復習して下さい。
	到達目標	耳鳴り・難聴の病態と治療について理解できる。	
12	授業内容	めまい	めまいについて予習･復習して下さい。
	到達目標	めまいの病態と治療について理解できる。	
13	授業内容	鼻汁・鼻閉	鼻汁・鼻閉について予習・復習して下さい。
	到達目標	鼻汁・鼻閉の病態と治療について理解できる。	
14	授業内容	咽頭・喉頭不快感	咽頭・喉頭不快感について予習・復習して下さい。
	到達目標	咽頭・喉頭不快感の病態と治療について理解できる。	
15	授業内容	まとめ(評価含む)	本授業で学んだことを復習しておいて下さい。
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	東洋医学臨床論Ⅴ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		烏丸いとう鍼灸院勤務					
担当者	伊藤　千展	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的

近年、原因不明の代謝疾患やアレルギーを中心とする自己免疫疾患が増加しています。この科目では、内分泌代謝疾患・自己免疫疾患を東洋医学の観念を含み、診察（はり・きゅうの適応の判断、病態生理学、生体観察を含む）から治療までを学習し、その西洋・東洋医学的観点からの病態把握と治療法を修得することを目的とします。

到達目標

内分泌代謝・自己免疫疾患に対する現代医学的・東洋医学的な疾患概念・診察・治療について学び、臨床現場で適切に対応できる。

授業の内容

１．授業方法は、教科書・板書・プリントを用いて講義形式で行います。

２．各項目のまとめとして、国家試験過去問を解いて解説をします。

３．自学自習（予習・復習）には教科書・プリントを活用してください。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

期末試験（100 点満点）で評価します。単位認定は 60 点以上です。

テキスト

「東洋医学臨床論＜はりきゅう編＞」　東洋療法学校協会編

「鍼灸診療コアテキスト」　明治東洋医学院専門学校編

参考文献・図書

『内科診断学　第３版』　医学書院

『病気がみえる（糖尿病・代謝・内分泌）第 4 版』　泰山堂書店

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 内分泌代謝疾患の概要	内分泌代謝疾患の概要について復習して下さい。
	到達目標	内分泌代謝疾患の概要について理解できる。	
2	授業内容	糖尿病①	糖尿病について予習･復習して下さい。
	到達目標	糖尿病の病態と治療について理解できる。	
3	授業内容	糖尿病②	糖尿病について予習･復習して下さい。
	到達目標	糖尿病の病態と治療について理解できる。	
4	授業内容	脂質異常症①	脂質異常症について予習･復習して下さい。
	到達目標	脂質異常症の病態と治療について理解できる。	
5	授業内容	脂質異常症②	脂質異常症について予習･復習して下さい。
	到達目標	脂質異常症の病態と治療について理解できる。	
6	授業内容	尿酸代謝異常（痛風・尿酸結石）	尿酸代謝異常について予習･復習して下さい。
	到達目標	尿酸代謝異常の病態と治療について理解できる。	
7	授業内容	自己免疫疾患（膠原病）の概要	自己免疫疾患の概要について復習して下さい。
	到達目標	自己免疫疾患の概要について理解できる。	
8	授業内容	関節リウマチ	関節リウマチについて予習･復習して下さい。
	到達目標	関節リウマチの病態と治療について理解できる。	
9	授業内容	アレルギー	アレルギーについて予習･復習して下さい。
	到達目標	アレルギーの病態と治療について理解できる。	
10	授業内容	内分泌疾患の概要	内分泌疾患について復習して下さい。
	到達目標	内分泌疾患の概要について理解できる。	
11	授業内容	下垂体疾患	下垂体疾患について予習･復習して下さい。
	到達目標	下垂体疾患の病態と治療について理解できる。	
12	授業内容	副腎疾患	副腎疾患について予習･復習して下さい。
	到達目標	副腎疾患の病態と治療について理解できる。	
13	授業内容	性腺疾患	性腺疾患について予習･復習して下さい。
	到達目標	性腺疾患の病態と治療について理解できる。	
14	授業内容	甲状腺・副甲状腺疾患	甲状腺･副甲状腺疾患について予習・復習して下さい。
	到達目標	甲状腺・副甲状腺疾患の病態と治療について理解できる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	本授業で学んだことを復習しておいて下さい。
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	専門鍼灸臨床学	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		季鍼灸院勤務					
担当者	宮本　直	E-mail		実施時期	３年　　前期		

授業の目的

診察診療論１～７、東洋医学臨床論Ⅰ～Ⅴ、伝統応用鍼灸学・伝統応用鍼灸学で得た知識を活かし、現代・東洋医学両観点からの診察・病態把握・治療方針の組み立てを行います。本科目では診察情報をもとに現代・東洋医学両観点からの**病態把握**ができるようになることを目的とする。

到達目標

診察情報をもとに現代・東洋医学両観点からの病態把握を行うことができる。

授業の内容

オムニバス形式で進行します。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

※後期末に実施される鍼灸総合実技試験の出題範囲はこの授業からになります。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

筆記試験、授業態度で評価を行います。試験は 100 点満点の記述形式で実施し、60 点以上を合格とします。

授業態度によっては最大 20 点の範囲で減点を行う場合があります。

テキスト

診察診療論（臨床医学各論・総論）、東洋医学臨床論Ⅰ～Ⅴ・伝統応用鍼灸学・伝統応用鍼灸学実習の授業資料、鍼灸診療コアテキスト、「臨床医学各論　第 2 版」東洋療法学校協会編、「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」東洋療法学校協会編

参考文献・図書

標準整形外科学　第 10 版」医学書院

「新病態生理できった内科学」医学教育出版社

オフィスアワーについて

曜日：直接、もしくはメールによりアポイントメントをとっていただくことによって、随時対応します。

時間：16 時 20 分～17 時 00 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 病態把握について	病態把握について再度理解を行い復習を行う。
	到達目標	病態把握に必要なポイントを理解する。	
2	授業内容	頸肩痛	頸肩痛の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	頸肩痛の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
3	授業内容	肩痛	肩痛の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	肩痛の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
4	授業内容	上肢痛・痺れ	上肢痛･痺れの診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	上肢痛・痺れの症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
5	授業内容	腰痛	腰痛の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	腰痛の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
6	授業内容	下肢痛・痺れ	下肢痛･痺れの診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	下肢痛・痺れの症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
7	授業内容	膝痛	膝痛の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	膝痛の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
8	授業内容	頻尿	頻尿の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	頻尿の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
9	授業内容	腹痛	腹痛の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	腹痛の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
10	授業内容	咳（喘鳴・呼吸困難）	咳の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	咳の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
11	授業内容	耳鳴・難聴	耳鳴り･難聴の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	耳鳴り・難聴の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
12	授業内容	めまい	めまいの診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	めまいの症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
13	授業内容	頭痛	頭痛の診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	頭痛の症例に対して診察に必要なポイントの理解と病態把握ができる。	
14	授業内容	総復習	今までの疾患･症候についての診察および病態把握について復習を行う。
	到達目標	主要疾患・症候について復習し、理解を深めることができる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	分からなかったことに対して復習を行う。
	到達目標	疾患・症候について理解し、病態把握が行うことができる。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	臨床鍼灸特論	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	福田　文彦	E-mail			実施時期	３年　　後期	

授業の目的

この科目は現代鍼灸を用いた様々な実験・研究がなされ、成果を上げている。その一旦を紹介し今後の鍼灸診療を行う上で活かせる知識として修得する事を目的とする。

到達目標

専門性を持った、鍼灸領域における現象やそのメカニズムを理解し、鍼灸診療に活かすことができる。

授業の内容

内科領域、整形外科領域、婦人科領域、泌尿器科領域、耳鼻咽喉科領域に対する過去の臨床研究や実験研究などのエビデンスを紹介し、さらには伝統的に用いられている各疾患に対する特効穴などを含めて各疾患に対しての鍼灸治療の有用性を理解する。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

・複数の教員でオムニバス形式で行われます。

・※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

・期末試験での評価を行います。

・欠席は減点の対象となります。

テキスト

指定のテキストはありません。各授業内で配布される資料を用いてください。

参考文献・図書

オムニバスによるため、都度説明紹介されます。

オフィスアワーについて（代表者）

曜日：直接、もしくはメールによりアポイントメントをとっていただくことによって、随時対応します。

時間：１６時２０分～１７時５０分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 循環器疾患に対する鍼灸治療	高血圧の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	高血圧の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
2	授業内容	循環器疾患に対する鍼灸治療	ASO の病態・鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	ASO の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
3	授業内容	呼吸器疾患に対する鍼灸治療	CPPD の病態・鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	COPD の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
4	授業内容	消化器・代謝疾患に対する鍼灸治療	糖尿病の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	糖尿病の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
5	授業内容	整形外科疾患に対する鍼灸治療	頚椎・上肢の病態・鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	頚椎・上肢の疾患の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
6	授業内容	整形外科疾患に対する鍼灸治療	腰椎・下肢の疾患の病態・鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	腰椎・下肢の疾患の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
7	授業内容	整形外科疾患に対する鍼灸治療	神経痛の疾患の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	神経痛の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
8	授業内容	神経疾患に対する鍼灸治療	パーキンソン病の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	パーキンソン病の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
9	授業内容	膠原病疾患に対する鍼灸治療	シェーグレン症候群の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	シェーグレン症候群の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
10	授業内容	婦人科疾患に対する鍼灸治療	逆子・更年期障害の病態・鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	逆子・更年期障害の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
11	授業内容	精神科疾患に対する鍼灸治療	うつ病の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	うつ病の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
12	授業内容	泌尿器科疾患に対する鍼灸治療	過活動膀胱の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	過活動膀胱の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
13	授業内容	小児疾患に対する鍼灸治療	小児疾患の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	夜尿症の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
14	授業内容	耳鼻科・眼科疾患に対する鍼灸治療	顔面神経麻痺の病態･鍼灸治療の現状について復習を行うようにする。
	到達目標	顔面神経麻痺の病態を理解し、鍼灸治療の現状を知ることができる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	理解不足であったところの復習を行う。
	到達目標	各疾患の病態の理解と鍼灸治療の現状についての確認が行える。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	鍼灸理論Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	矢島　道子	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的

鍼刺激やきゅう刺激において、過去より様々な研究が行われ、そのメカニズムや作用機序が述べられています。それらの研究内容を理解し、それぞれの鍼灸の効果や作用機序を学習し、修得していくことを目的とします。

到達目標

治効理論を理解した上で、治療方針・計画に組み込むことができること。

国家試験のはり理論・きゅう理論を解く力を身につけること。

授業の内容

・鍼灸治効の基礎　（生理学から見た鍼灸）

・鍼灸医療安全ガイドライン

鍼灸理論を理解するには、生理学の知識が必要です。生理学、解剖学の復習をしながら、鍼灸の作用・効果を学びます。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

学期末の期末試験を実施し、60点以上で合格とします。

※受験資格：本授業の2/3以上の出席。

テキスト

東洋療法学校協会編　「はりきゅう理論」

鍼灸安全性委員会編　「鍼灸医療安全ガイドライン」

参考文献・図書

「鍼灸臨床の科学」医歯薬出版、2000年

「鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス」医歯薬出版、2014年

「痛みと鎮痛の基礎知識 上・下」技術評論社、2010年

オフィスアワーについて（代表者）

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			予習・復習
1	授業内容	オリエンテーション　痛みと痛みの受容	痛みついて予習しておく。
	到達目標	侵害受容性疼痛・神経因性疼痛・心因性疼痛の概念を述べることができる。高閾値機械受容器、ポリモーダル受容器の反応特性を述べることができる。内因性発痛物質の種類を述べることができる。	
2	授業内容	求心線維、伝導路	痛みの伝導路について予習しておく。
	到達目標	痛みの悪循環のメカニズムを述べることができる。痛みの伝導路の名称を３種類、ニューロンがシナプスする場所を述べることができる。侵害刺激の脊髄内伝達物質を３種類述べることができる。	
3	授業内容	痛みの感覚　関連痛、内臓痛	本講義で学習した内容を復習しておく。
	到達目標	感覚の認識を行う部位を述べることができる。熱痛が生じる温度、受容器、一次線維の伝達物質を述べることができる。内臓痛の痛みの特徴と痛みを過敏にする因子を２つ述べることができる。 内臓痛に伴う反射を述べることができる。関連痛のメカニズムとして収束説を説明することが出来る。	
4	授業内容	温度感覚、触圧感覚	各感覚について予習しておく。
	到達目標	無関帯の概念とその温度を述べることができる。温度感覚の受容器、形態、神経線維、伝導路を述べることができる。触圧覚の受容器と順応についての特性を述べることができる。 触圧覚を伝える神経線維、伝導路の経路と交叉・シナプスする部位を述べることができる。	
5	授業内容	深部感覚、体性運動反射	深部感覚の予習しておく。
	到達目標	深部感覚の概念、運動感覚の受容器とその総称を述べることができる。体性運動反射の受容器と神経、反射路について、伸張反射・拮抗抑制、自原抑制、屈曲反射・交叉性伸展反射について述べることができる。	
6	授業内容	自律神経反射	自律神経反射について予習しておく。
	到達目標	内臓-内臓反射、内臓-体性反射、体性-内臓反射の反射路と反射の例を挙げることができる。 軸索反射のメカニズムについて、受容器、神経線維、放出される物質、出現する反応を述べることができる。刺鍼局所の循環改善、遠隔部の循環改善を起こす反射を述べることができる。	
7	授業内容	鍼刺激とポリモーダル受容器	ポリモーダル受容器について予習しておく。
	到達目標	ポリモーダル受容器の特性、存在する部位とその部位で支配する神経線維を述べることができる。 圧痛点の出現するメカニズムを説明することができる。	
8	授業内容	鍼麻酔と鍼鎮痛１	鍼鎮痛（オピオイド系）について復習しておく。
	到達目標	鍼鎮痛(鍼麻酔)の特徴、長所短所を述べることができる。内因性オピオイドの概念、種類、構造、作用を述べることができる。オピオイド受容体の概念、拮抗物質を述べることができる。 SPA の概念、内容を述べることができる。	
9	授業内容	鍼麻酔と鍼鎮痛２	鍼鎮痛（下行性抑制）について復習しておく。
	到達目標	視床下部から下行性抑制によって脊髄で侵害刺激情報が抑制されるところまでの経路、部位、神経伝達物質を述べることができる。βエンドルフィンの中枢・末梢へ放出するそれぞれの部位を述べることができる。鍼鎮痛の個体差を消失させる物質と、その作用のメカニズムを説明することができる。	
10	授業内容	ゲートコントロールと TENS	鍼鎮痛（ゲートコントロール説）について復習しておく。
	到達目標	ゲートコントロールの提唱者、痛みが抑制される部位、関与する求心性神経を述べることができる。 TENS についてゲートコントロールの応用としての使用法と、下行性抑制的な効果を出す使用法を述べることができる。DNIC の概念と特徴を述べることができる。 オピオイド系鎮痛とゲートコントロールの違いを述べることができる。	
11	授業内容	施鍼施灸の局所反応、治療的作用	局所反応の復習しておく。
	到達目標	毫鍼、小児鍼、有痕灸、無痕灸の刺激の受容器・神経線維・伝導路を述べることができる。 鍼灸共通の治療的作用、灸のみの治療的作用の名称と作用の概念を述べることができる。	

12	授業内容	鍼灸医療安全ガイドライン	鍼灸医療安全ガイドラインの復習をしておく。
	到達目標	消毒の方法・薬剤、医療機器の分類、滅菌、クリーンニードルテクニック、感染性廃棄物について述べることができる。	
13	授業内容	鍼灸医療安全ガイドライン	鍼灸医療安全ガイドラインの復習をしておく。
	到達目標	WHO のガイドラインでの禁忌、注意する病態を述べることができる。鍼・灸の避ける部位を述べることができる。主だったツボの安全深度を挙げることができる。	
14	授業内容	鍼灸理論Ⅰの内容の総復習	
	到達目標		
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	鍼灸理論Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	矢島　道子	E-mail			実施時期	３年　　後期	

授業の目的

鍼刺激やきゅう刺激において、過去より様々な研究が行われ、そのメカニズムや作用機序が述べられています。それらの研究内容を理解し、それぞれの鍼灸の効果や作用機序を学習し、修得していくことを目的とします。

到達目標

1)　患者さんあるいはメディカルスタッフに鍼灸の効果やその作用機序が説明できる。
2)　鍼灸の効果やそのメカニズムを基に鍼灸治療の方針や方法を立案することができる。
3)　学会、講習会での発表や論文を理解することができる。
4)　国家試験に合格できる。

授業の内容

（1）鍼灸療法の一般治効理論（鍼灸刺激の各器官系への影響）

（2）関連学説（鍼灸の機序、効果を説明するのに有用な医学の学説）

研究成果や学説を理解することにより、鍼灸についての理解を深めてください。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。
※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

学期末の期末試験を実施し、60点以上で合格とします。

※受験資格：本授業の2/3以上の出席。

テキスト

東洋療法学校協会編　はりきゅう理論

参考文献・図書

「鍼灸臨床の科学」医歯薬出版、2000年

「鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス」医歯薬出版、2014年

「鍼灸最前線」医道の日本社、1998年

オフィスアワーについて（代表者）

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			予習・復習
1	授業内容	自律神経	自律神経の効果器について復習しておく。
	到達目標	交感神経・副交感神経の単独支配の効果器、拮抗支配ではない効果器を述べることができる。 瞳孔、唾液腺、皮膚血管、心臓機能、消化管運動、汗腺などに対する自律神経の作用を述べることができる。自律神経の伝達物質と受容体を述べることができる。α受容体と β 受容体それぞれが刺激された反応を区別することができる。	
2	授業内容	血管・心拍数に対する鍼灸刺激の影響	血管・心拍数の変化について予習しておく。
	到達目標	皮膚血管の拡張・収縮についての受容体・自律神経の作用を述べることができる。 骨格筋の血管の拡張・収縮について、α、β、ムスカリン受容体それぞれの作用と違いを述べることができる。心拍数に対する鍼と灸の作用を述べることができる。	
3	授業内容	軸索反射と鍼灸刺激	軸索反射について予習しておく。
	到達目標	モルモットの腓腹筋への刺鍼による実験について学習し、腓腹筋の筋血流改善に関係する神経・伝達物質を述べることができる。 軸索反射におけるＣ線維、コリン作動性神経の２種類について段階を踏んで説明することができる。	
4	授業内容	体性自律反射と鍼灸刺激	体性自律反射について予習しておく。
	到達目標	モルモットの背部刺鍼による腓腹筋の血流改善の実験について学習し、関係する神経・反射の経路・伝達物質、中枢を説明することができる。麻酔ラットの足三里への刺鍼による血圧に対する影響とピンチ刺激との違いを説明することができる。	
5	授業内容	胃・膀胱に対する鍼灸刺激	胃・膀胱の反射について予習しておく。
	到達目標	麻酔ラットの腹部刺鍼、後肢刺鍼それぞれについて、胃運動への影響、関与する神経、反射の経路、中枢、効果器での受容体について述べることができる。膀胱運動に影響する刺鍼部位と働きを述べることができる。血圧・胃運動・膀胱運動に対する自律神経反射が、それぞれ脊髄分節性であるのか、上脊髄性であるのかを述べることができる。	
6	授業内容	鍼灸と炎症反応	炎症反応について予習しておく。
	到達目標	施鍼・施灸局所でみられる炎症による現象と機序を述べることができる。炎症部位への白血球の浸潤のメカニズムを説明することができる。炎症の際に放出されるケミカルメディエーターについてどこから放出されるか述べることができる。	
7	授業内容	生体防御　免疫	免疫について予習しておく。
	到達目標	自然免疫、獲得免疫について、それぞれで働く細胞とその役割を述べることができる。 鍼灸刺激による免疫システムへの影響について述べることができる。	
8	授業内容	灸刺激と生体防御	熱刺激に対する生体作用について予習しておく。
	到達目標	透熱灸の施灸局所の反応と血液への影響を述べることができる。焦灼灸の温熱作用以外の作用、その原因となる成分を述べることができる。打膿灸の際に起きる現象を説明できる。隔物灸の温熱以外の作用を述べることができる。	
9	授業内容	循環・血流に対する鍼灸の影響	環・血流に対する鍼灸の影響について復習しておく。
	到達目標	軸索反射・自律神経反射による血流改善の機序を述べることができる。	
10	授業内容	経絡と経穴	経絡、経穴について予習しておく。
	到達目標	経穴の組織学的特徴を述べることができる。経絡現象の例を述べることができる。 電気抵抗低下現象と、それを応用した診断法について述べることができる。圧痛点・トリガーポイントについて説明することができ、経穴との関連性について述べることができる。	
11	授業内容	サイバネティックスとホメオスタシス	ホメオスタシスについて復習しておく。
	到達目標	内部環境、ホメオスタシス、サイバネティックスそれぞれの提唱者と学説の内容と、各学説間の関連性を述べることができる。	

12	授業内容	ストレス学説	ストレスについて予習しておく。
	到達目標	ストレス学説・汎適応症候群の提唱者、ストレスとストレッサーの概念を述べることができる。 ストレスの３つの様相を述べることができる。ストレスの３つの時期と２つの相を述べることができる。交絡抵抗と交絡感作の概念と、どの時期にあたるかを説明することができる。ストレスの内分泌系や自律神経の反応を説明することができる。ストレス蛋白について説明することができる。	
13	授業内容	レイリー現象と圧自律神経反射	本講義で学習した内容を復習しておく。
	到達目標	過剰刺激症候群、圧自律神経反射の提唱者を述べることができる。レイリー現象の４大特性を述べることができる。圧自律神経反射について、圧迫側・非圧迫側の反応を述べることができる。	
14	授業内容	13 コマの内容の復習	
	到達目標		
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	基礎東洋医学治療論	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		泉州鍼灸治療院勤務					
担当者	田口　敬太	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的

東洋医学概論では東洋医学の基本的な病態生理を学び、東洋医学臨床論ではその理論に基づく病態把握を理解しました。この科目では更に、中国医学に基づいた弁証論治を学び、東洋医学的鍼灸診療に応用することを学び、修得することを目的とします。

到達目標

生理物質、臓腑の生理と病理を理解し、弁証論治の手順に従って病証の把握から治療方法の選択まで導き出すことが出来る。

授業の内容

東洋医学概論の復習を中心に、弁証論治に必要な知識の整理と理解を深めていきます。

板書を中心に行いますので、ノートをとってください。

定期的に確認テストを行います。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

・総授業時間数の 2/3 以上出席したものを評価対象とします。

・無断での途中退出についても**欠席扱い**とします。

・期末に筆記試験を行い、60%以上で単位が認定されます

テキスト

・東洋療法学校協会編「新版　東洋医学概論」

参考文献・図書

・鍼灸学「基礎編」日中共同編集／東洋学術出版

オフィスアワーについて（代表者）

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 弁証論治とは　弁証について	弁証の種類について復習する
	到達目標	弁証論治の概要と弁証の種類を理解できる	
2	授業内容	八綱弁証と気血津液弁証（気・血の生理と病理、その病証） それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	気・血の病理について予習・復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
3	授業内容	気血津液弁証（津液・精の生理と病理、その病証） それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	津液・精の病理について予習・復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
4	授業内容	気血津液弁証（陰・陽の生理と病理、その病証と生理物質の複合的な病証）　それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	陰陽の病理について予習･復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
5	授業内容	臓腑弁証（肝・胆、心・小腸の病証） それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	五臓の生理と病理を予習･復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
6	授業内容	臓腑弁証（脾・胃、肺・大腸の病証） それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	五臓の生理と病理を予習･復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
7	授業内容	臓腑弁証（腎・膀胱の病証、五臓の複合的な病証） それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	五臓の生理と病理を予習･復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
8	授業内容	臓腑弁証（五臓の複合的な病証）とその他の弁証 それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	五臓の関係について予習･復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
9	授業内容	論治について　治則と治法 それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	治則について復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
10	授業内容	生理物質と臓腑に対する治法 それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	治法について復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
11	授業内容	治療法の概要と選穴の原則 それぞれの復習と整理を行い、理解を深める	難行六十九難について復習する
	到達目標	内容を復習・整理し、問題解決につなげる	
12	授業内容	弁証論治の進めかたと証の決定 手順を確認し、証と治療方法の決め方を学ぶ	弁証論治の手順を復習する
	到達目標	手順を理解し、治療まで導き出せる	
13	授業内容	弁証論治　症例における実践 1. 症例を用いて手順に従って弁証論治を実践する	弁証論治の手順を復習する
	到達目標	手順に従って導くことが出来る	
14	授業内容	弁証論治　症例における実践 2. 症例を用いて手順に従って弁証論治を実践する	弁証論治の手順を復習する
	到達目標	手順に従って導くことが出来る	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標	弁証論治について、手順に従って導き出すことが出来る	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	鍼灸応用演習Ⅰ	単位数	１単位	授業形態	演習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		季鍼灸院勤務					
担当者	宮本　直	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的

スポーツ現場で活かせる鍼灸診療特に、①鍼灸治療の適否が判断できる力（診察力）、②症状に合わせたオーダーメイドの治療ができる力（治療力）、③個人の特性に合わせた生活・運動指導ができる力（指導力）について学びます。また、怪我が起こってから対応するだけでなく、いかに怪我をさせないか？という予防の視点もこれからの重要なテーマとして捉えていきます。

到達目標

1. スポーツ鍼灸の基本的考え方について理解を深めること
2. 外傷・障害に応じた情報収集と診察・評価、治療までを理解する
3. 競技復帰までのアスレチックリハビリテーションについて理解する

授業の内容

①診察、②治療、③指導を基本的な授業の軸にしています。
①　診察では、それぞれの症状に応じた優先度の高い検査と除外・鑑別に必要な検査を紹介します。
②　治療では、“はり”や“きゅう”を用いた標治法・本治法を紹介します。
③　指導では、鍼灸臨床の現場でも実施できる後療法、運動指導を紹介します。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。
※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。
※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

・総授業時間数の 2/3 以上出席したものを評価対象とします。
・無断での途中退出についても**欠席扱い**とします。
・期末に筆記試験を行い、60%以上で単位が認定されます。

テキスト

配布プリント

参考文献・図書

スポーツ鍼灸の実際　最新の理論と実践　医道の日本社　福林徹　宮本俊和
復帰を目指すスポーツ整形外科　メジカルビュー　宗田大

オフィスアワーについて（代表者）

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション Conditioning1　未病治	スポーツ鍼灸の考え方について復習する
	到達目標	鍼灸をスポーツに活かすための基本的事項を理解する	
2	授業内容	Conditioning2　診察法と治療 1 診察のバリエーションと治療方法を学ぶ	診察法、治療法について復習する。
	到達目標	頚部の反応点、下腿部の反応の診方と治療法を理解する	
3	授業内容	Conditioning3　診察法と治療 2 診察のバリエーションと治療方法を学ぶ	疲労に対する診察法と治療法を復習する。
	到達目標	全身疲労と精神疲労の確認と治療法を理解する	
4	授業内容	Conditioning4　姿勢・動作からの考察、治療 姿勢と動作の評価法と治療方法を学ぶ	姿勢･動作の評価方法について復習する。
	到達目標	評価法と治療方法を理解する	
5	授業内容	Case1　腰部のだるさ、腰下肢の疼痛・しびれ 診察・評価方法と治療法を学ぶ	疾患と評価法･治療法の組合せを復習する。
	到達目標	疾患と評価方法、特異的治療法を理解する	
6	授業内容	Case1 に対するアスレチックリハビリテーション 運動療法について学ぶ	運動について理解し、体験する。
	到達目標	腰痛に対する運動療法を体験し、理解する	
7	授業内容	Case2　鼠径部の違和感、疼痛 現代医学的診察と評価方法を学ぶ	特異的診察法を復習する。
	到達目標	疾患と評価方法、特異的治療法を理解する	
8	授業内容	Case21 に対する東洋医学的診察と治療法、 アスレチックリハビリテーション、運動療法について学ぶ	運動について理解し、体験する。
	到達目標	鼠径部痛に対する治療法、運動療法を体験し、理解する	
9	授業内容	Case3　大腿部の疼痛 診察、評価方法と治療法を学ぶ	疾患と特異的治療法を復習する。
	到達目標	疾患と評価方法、特異的治療法を理解する	
10	授業内容	Case4　膝関節の腫脹、可動域制限、膝関節の違和感 診察・評価方法と治療法を学ぶ	疾患と特異的治療法を復習する。
	到達目標	疾患と評価方法、特異的治療法を理解する	
11	授業内容	Case1 に対するアスレチックリハビリテーション 運動療法について学ぶ	運動について理解し、体験する。
	到達目標	膝痛に対する運動療法を体験し、理解する	
12	授業内容	Case5　下腿部内側の痛み 診察、評価方法と治療法、運動療法を学ぶ	疾患と特異的治療法を復習する。
	到達目標	疾患と評価方法、特異的治療法、運動指導を理解する	
13	授業内容	Case6　足関節の腫脹、疼痛、可動域制限 診察、評価方法と治療法、運動療法を学ぶ	疾患と特異的治療法を復習する。
	到達目標	疾患と評価方法、特異的治療法、運動指導を理解する	
14	授業内容	Case7　肩関節の疼痛、可動域制限 投球動作に関連する痛みの診察・評価方法と治療法を学ぶ	疾患と特異的治療法を復習する。
	到達目標	疾患と評価方法、特異的治療法を理解する	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標	スポーツ鍼灸の具体的アプローチについて理解する	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	鍼灸応用演習Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	演習	実務経験の有無	㊒・無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	蘆原　恵子	E-mail			実施時期	3年　　後期	

授業の目的

専門鍼灸臨床学でいつまでも健康であり、伝統的な鍼灸技能を修得する鍼灸領域の講義がなされました。
この科目はその内容に則した実技を実践し、技術の修得を目的とします。

到達目標

本実習は卒業後にすぐに応用できる鍼灸治療の伝統的な技術を習得する科目です。
それぞれの項目を基礎・応用・疾患への対応などに分け、より専門的・臨床的に理解し実践することを目的とします。

授業の内容

1)特殊鍼法(赤羽式、灸頭鍼法、皮内鍼法)の基礎を理解し、臨床的な治療技術を獲得する。

2)特殊灸法(隔物灸、多壮灸など)の臨床応用について理解し、技術を獲得する。

3)吸角療法の基本を理解し、臨床的な治療技術を獲得する。

4)その他の鍼法(古代刺鍼手技、単刺術など)を理解し、臨床応用を確認する。

5)臨床的応用としてこの実習で習得した技術を一連の流れで臨床的に実施する。

6)定期的に復習と習得を見極めるために技術チェックを行う。

なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

臨床を意識した実技を行って頂く為に、以下の事項を厳守して頂きます。(**違反した場合は減点となります。**)

①授業開始時の号令は全員の白衣・ケーシ着用(学生証は胸ポケットに付ける)を確認後に行います。

②携帯電話・スマートホン等は電源を切り、カバンの中に入れて実技内の棚に置いて下さい。

③アクセサリー(指輪、マニキュア、ピアス、ネックレス、時計)などの装飾品は禁止とします。

④鍼灸具の貸し借りや飲食物の持ち込みは認めません。

成績評価

通常の授業態度(出席状況も含む)と定期的に習得した内容に応じた実技チェック2回を実施し、評価して行きますので休まないようにして下さい。

テキスト

授業ごとにA4サイズのプリントを配布いたします。(ファイルを準備してください)

適宜、授業中に参考文献や書籍を紹介する予定をしています。

参考文献・図書

「はりきゅう基礎技術学」有馬　義貴著　南江堂

オフィスアワーについて(代表者)

曜日: 木曜日

時間: 16 時 20 分～ 17 時 50 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(50 分程度)を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、 赤羽式知熱感度測定法と経脈の変動の確認	赤羽式知熱感度測定法について復習しておく。
	到達目標	知熱感度測定法で測定することができる。	
2	授業内容	シーソー現象と治療法（皮内鍼）	皮内鍼法について復習しておく。
	到達目標	知熱感度測定法の結果から皮内鍼で治療することができる。	
3	授業内容	健康灸（多壮灸）：体幹部への施灸	健康灸で使用する経穴を復習しておく。
	到達目標	多壮灸（八分灸）がスムーズに行うことができる。	
4	授業内容	小児鍼・鍉鍼の基礎	小児鍼・鍉鍼について復習しておく。
	到達目標	小児鍼・鍉鍼をスムーズに行うことができる。	
5	授業内容	小児鍼・皮内鍼（応用）・和紙灸	小児鍼・皮内鍼・和紙灸について復習しておく。
	到達目標	小児鍼・皮内鍼・和紙灸をスムーズに行うことができる。	
6	授業内容	実技チェックのまとめ（皮内鍼・和紙灸・多壮灸・小児鍼）	皮内鍼・和紙灸・多壮灸・小児鍼について復習しておく。
	到達目標	皮内鍼・和紙灸・多壮灸・小児鍼を安全・スムーズに行うことができるか確認する。	
7	授業内容	実技チェック1回目（皮内鍼・和紙灸・多壮灸・小児鍼）	皮内鍼・和紙灸・多壮灸・小児鍼について再度復習しておく。
	到達目標	実技チェック１回目の内容について技術を修得している。	
8	授業内容	隔物灸・温灸　各種	隔物灸・温灸について復習しておく。
	到達目標	隔物灸・温灸　各種をスムーズに行うことができる。	
9	授業内容	クリーンニードルテクニック 多壮灸（連続灸）：足部への施灸	クリーンニードルテクニックができるように復習しておく。
	到達目標	クリーンニードルテクニックができる。 多壮灸がスムーズに行うことができる。	
10	授業内容	古代刺鍼手技、単刺術　　＊腰痛に対する効果の検討	古代刺鍼の手技ができるように復習しておく。
	到達目標	古代刺鍼手技を理解し、スムーズに行うことができる。	
11	授業内容	吸角療法　①	吸角療法の基本手技ができるように復習しておく。
	到達目標	吸角療法の基本操作を行うことができる。	
12	授業内容	吸角療法　②	吸角療法の応用手技ができるように復習しておく。
	到達目標	吸角療法の応用を行うことができる。	
13	授業内容	灸頭鍼法　①	灸頭鍼の基本手技ができるように復習しておく。
	到達目標	灸頭鍼を安全に行うことができる。	
14	授業内容	実技チェックまとめ（多壮灸、斉刺、輸刺、傍鍼刺、灸頭鍼　）	多壮灸、斉刺、輸刺、傍鍼刺、灸頭鍼が安全・スムーズに行うことができるか確認する。
	到達目標	多壮灸、斉刺、輸刺、傍鍼刺、灸頭鍼を安全・スムーズに行うことができるか確認する。	
15	授業内容	実技チェック2回目（　多壮灸、斉刺、輸刺、傍鍼刺、灸頭鍼　）	多壮灸、斉刺、輸刺、傍鍼刺、灸頭鍼が安全・スムーズに行うことができるか再度確認する。
	到達目標	実技チェック2回目の内容について技術を修得している。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	社会はりきゅう学	単位数	1単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	福田　文彦	E-mail		実施時期	3年　　前期		

授業の目的
現代の日本社会における鍼灸療法の社会的役割、および鍼灸医療を取り巻く様々な医療環境などの基礎知識の修得とともに鍼灸療法をどのように社会に活かすかを考察します。さらに、これらを踏まえ、各自がどのような鍼灸師・鍼灸業をめざすのかを明確にすること目的とします。
到達目標
現代の日本社会における鍼灸療法の社会的役割および鍼灸医療を取り巻く様々な医療環境について知り、各自どのような鍼灸師・鍼灸業を目指していくか考えることができる。
授業の内容
オムニバス形式で進行します。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。 ※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。
成績評価
レポート評価を行います。また、授業中の態度および課題（ホームページ作成など）も評価に含まれます。授業態度によっては最大 20 点の範囲で減点を行う場合があります。
テキスト
配布プリント 必要に応じて事前にアナウンスします。
参考文献・図書
オムニバスによるため、都度説明紹介します。またインターネット関連サイト・関連文献なども参考にして下さい。
オフィスアワーについて
曜日：直接、もしくはメールによりアポイントメントをとっていただくことによって、随時対応します。 時間：16 時 20 分～17 時 00 分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 鍼灸を取り巻く環境について	鍼灸を取り巻く環境について考え、振り返る。
	到達目標	鍼灸を取り巻く環境について学んだことを理解する。	
2	授業内容	地域における鍼灸について	地域における鍼灸の役割について振り返る。
	到達目標	地域における鍼灸について学んだことを理解する。	
3	授業内容	シルバー鍼灸について	シルバー鍼灸の役割について振り返る。
	到達目標	シルバー鍼灸について学んだことを理解する。	
4	授業内容	キッズ鍼灸について	キッズ鍼灸の役割について振り返る。
	到達目標	キッズ鍼灸について学んだことを理解する。	
5	授業内容	レディース鍼灸について	レディース鍼灸の役割について振り返る。
	到達目標	レディース鍼灸について学んだことを理解する。	
6	授業内容	美容鍼灸について	美容鍼灸の役割について振り返る。
	到達目標	美容鍼灸について学んだことを理解する。	
7	授業内容	スポーツ鍼灸について1 社会におけるスポーツの役割と鍼灸の関わりを学ぶ	スポーツ鍼灸の役割について振り返る。
	到達目標	スポーツ鍼灸について学んだことを理解する。	
8	授業内容	スポーツ鍼灸について2 鍼灸師がスポーツに関わる際に必要なことを学ぶ	スポーツに関わる際に必要なことについて振り返る。
	到達目標	スポーツ鍼灸について学んだことを理解する。	
9	授業内容	鍼灸師が必要な医療保険制度について	鍼灸師が必要な医療保険の制度について復習する。
	到達目標	鍼灸師が必要な医療保険について学んだことを理解する。	
10	授業内容	自分の鍼灸院ホームページの作成1	ホームページ作成に必要な情報・内容などを考え、復習・予習をする。
	到達目標	ホームページを作成する過程を理解する。	
11	授業内容	自分の鍼灸院ホームページの作成2	ホームページ作成に必要な情報・内容などを考え、復習・予習をする。
	到達目標	ホームページを作成する過程を理解し、実践する。	
12	授業内容	自分の鍼灸院ホームページの作成3	ホームページ作成に必要な情報・内容などを考え、復習・予習をする。
	到達目標	ホームページを作成する過程を理解し、実践する。	
13	授業内容	自分の鍼灸院ホームページの作成4	ホームページ作成に必要な情報・内容などを考え、復習・予習をする。
	到達目標	ホームページを作成する過程を理解し実践する。	
14	授業内容	作成したホームページをプレゼンしよう	作成したホームページの問題点・改善点などを復習する。
	到達目標	各自作成したホームページのコンセプトを伝える。	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標	各授業内容について理解しアウトプットすることができる。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	鍼灸総合実習Ⅰ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	矢島　道子	E-mail			実施時期	３年　　前期	

授業の目的

３年間で得た知識を活かし、現代・東洋医学両観点からの診察・病態把握・治療方針の組み立てを行います。本科目では現代・東洋医学両観点からの医療面接・診察・鍼灸治療ができるようになることを目的とします。また、実務に必要な知識、技術を企業との連携により、講師を招き学習することを目的とする。

到達目標

現代・東洋医学両観点からの診察・病態把握・治療方針の組み立てを実施することができるようになるとともに、東洋療法学校協会主催基礎実技試験および総合実技試験に合格する水準の技術を行うことができるようになる。また、企業との連携による実務に必要な技術を実施することができる。

授業の内容

鍼灸診療に必要な診察手技（医療面接、徒手検査、東医学的検査、鍼灸治療）について、3年までに学んだ内容の復習を含め、各疾患に必要な診察手技の確認を行います。また、授業の後半では模擬症例を通して、病態把握に必要な診察手技、適切な鍼灸治療についてグループワークにてディスカッションを行い、その内容を踏まえて模擬診察を行います。授業は少人数で実施されます。患者役、鍼灸師役、評価者役を担当していただきます。積極的に授業に参加してください。なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※1　鍼灸道具、鍼灸診療コアテキストを必ず準備しておくこと。
※2　遅刻・欠席には十分注意して下さい。無断での途中退室は欠席扱いとします。また、やむを得ず授業中に退室する場合は必ず教員の許可を取ってください。
※3　今年度、実施される総合実技試験の出題範囲となりますので授業資料は大切に保存してください。

成績評価

4/5以上の出席が必要です。欠席時間についてはくれぐれも注意してください。
授業態度と期末試験で評価にて評価を行います。期末試験では、西洋医学的診察（徒手検査、中枢神経系検査）および東洋医学的診察（M-sys）の評価を行います。授業態度によって減点を行うこともあります。

テキスト

鍼灸診療コアテキスト、
「臨床医学各論　第2版」東洋療法学校協会編、「東洋医学臨床論<はりきゅう編>」東洋療法学校協会編

参考文献・図書

「標準整形外科学　第10版」医学書院、「新病態生理できった内科学」医学教育出版社

オフィスアワーについて

随　時

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 医療面接	医療面接について復習しておく。
	到達目標	医療面接を行うことができる。	
2	授業内容	運動器系疾患の徒手検査と病態把握	運動器系疾患の徒手検査と病態把握について復習しておく。
	到達目標	運動器系疾患の病態把握を行うことができる。	
3	授業内容	非運動器系疾患の徒手検査と病態把握	非運動器系疾患の徒手検査と病態把握について復習しておく。
	到達目標	非運動器系疾患の病態把握を行うことができる。	
4	授業内容	徒手検査・病態把握　まとめ	徒手検査について復習しておく。
	到達目標	徒手検査を行うことができる。	
5	授業内容	M-system による運動器系疾患の病態把握	M-system による運動器系疾患の病態把握について復習しておく。
	到達目標	M-system による運動器系疾患の病態把握を行うことができる。	
6	授業内容	M-system による非運動器系疾患の病態把握	M-system による非運動器系疾患の病態把握について復習しておく。
	到達目標	M-system による非運動器系疾患の病態把握を行うことができる。	
7	授業内容	M-system　まとめ	M-system について復習しておく。
	到達目標	M-system を行うことができる。	
8	授業内容	小児鍼の種類と適応、方法	小児鍼の種類と適応について復習しておく。
	到達目標	小児鍼を行うことができる。	
9	授業内容	灸頭鍼①（概論、施術の基礎、足部の練習）	足部の灸頭鍼について復習しておく。
	到達目標	足部の灸頭鍼を行うことができる。	
10	授業内容	灸頭鍼②（頸肩部の練習）	頸肩部の灸頭鍼について復習しておく。
	到達目標	頸肩部の灸頭鍼を行うことができる。	
11	授業内容	灸頭鍼②（腰部の練習）	腰部の灸頭鍼について復習しておく。
	到達目標	を行うことができる。	
12	授業内容	病態、病証に基づく選穴と治療	病証に基づく選穴について復習しておく。
	到達目標	病証に基づく選穴を行うことができる。	
13	授業内容	病態、病証に基づく選穴、治療、治療効果の評価	治療効果の評価について復習しておく。
	到達目標	治療効果の評価を行うことができる。	
14	授業内容	鍼灸施術のまとめ	鍼灸施術のまとめについて復習しておく。
	到達目標	鍼灸施術のまとめを行うことができる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	本科目で実施した内容を復習しておく。
	到達目標	本科目で復習し内容を実施することができる。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	鍼灸総合実習Ⅱ	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	矢島　道子	E-mail			実施時期	３年　　後期	

授業の目的
本授業は、1～３年次の総まとめの科目です。 『医療面接をもとに、検査(鑑別・除外)、視診、触診情報から病態を把握し適切な治療が行える』 これまでに修得した知識を活かし、現代・東洋医学両観点からの診察・病態把握・治療方針の組み立てを行います。 本科目では現代・東洋医学両観点からの鍼灸診療（医療面接・診察・治療）ができるようになることを目的とします。
到達目標
現代・東洋医学両観点からの診察・病態把握・治療方針の組み立てを実施することができるようになる
授業の内容
本授業の内容は鍼灸の臨床現場で多く遭遇する症状に対応できるように考えられています。授業の方法は実習形式となり、鍼灸臨床学で実施した疾患に必要な診察法、また病態把握に基づいた治療を行います。 毎回の授業の進行方法…ペアもしくは３人一組に分かれ各疾患に対しての一連の診療（医療面接・検査・病態把握・治療）35分×2クール、後半約の残り時間で症例の解説が実施されます。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
※1　鍼灸診療コアテキストを準備しておくこと。 ※2　遅刻・欠席には十分注意して下さい。無断での途中退室は欠席扱いとします。また、やむを得ず授業中に退室する場合は必ず教員の許可を取ってください。 ※3　今年度、実施される総合実技試験の出題範囲となりますので授業資料は大切に保存してください。
成績評価
4/5以上の出席が必要です。欠席時間についてはくれぐれも注意してください。 総合実技試験で評価を行います。なお、総合実技試験で実施される医療面接、現代医学的検査、東洋医学的検査、治療それぞれ60%以上で単位認定とします。
テキスト
鍼灸診療コアテキスト、 「臨床医学各論　第2版」東洋療法学校協会編、「東洋医学臨床論<はりきゅう編>」東洋療法学校協会編
参考文献・図書
「標準整形外科学　第10版」医学書院　　「新病態生理できった内科学」医学教育出版社
オフィスアワーについて
随　時
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 基礎実技(はり・きゅう)の練習	基礎実技(はり･きゅう)について復習しておく。
	到達目標	基礎実技(はり・きゅう)を行うことができる。	
2	授業内容	頸肩部痛について	頸肩部痛の治療について復習しておく。
	到達目標	頸肩部痛についての治療を行うことができる。	
3	授業内容	肩痛について	肩痛の治療について復習しておく。
	到達目標	肩痛についての治療を行うことができる。	
4	授業内容	上肢の痛み・痺れについて	上肢の痛み･痺れの治療について復習しておく。
	到達目標	上肢の痛み・痺れについての治療を行うことができる。	
5	授業内容	腰痛について	腰痛の治療について復習しておく。
	到達目標	腰痛についての治療を行うことができる。	
6	授業内容	腰下肢痛み・痺れについて	腰下肢痛み･痺れの治療について復習しておく。
	到達目標	腰下肢痛み・痺れについての治療を行うことができる。	
7	授業内容	膝痛について	膝痛の治療について復習しておく。
	到達目標	膝痛についての治療を行うことができる。	
8	授業内容	頻尿について	頻尿の治療について復習しておく。
	到達目標	頻尿についての治療を行うことができる。	
9	授業内容	腹痛について	腹痛の治療について復習しておく。
	到達目標	腹痛についての治療を行うことができる。	
10	授業内容	咳（喘鳴・呼吸困難）について	咳（喘鳴・呼吸困難）の治療について復習しておく。
	到達目標	咳（喘鳴・呼吸困難）についての治療を行うことができる。	
11	授業内容	耳鳴・難聴について	耳鳴･難聴の治療について復習しておく。
	到達目標	耳鳴・難聴についての治療を行うことができる。	
12	授業内容	めまいについて	めまいの治療について復習しておく。
	到達目標	めまいについての治療を行うことができる。	
13	授業内容	頭痛について	頭痛の治療について復習しておく。
	到達目標	頭痛についての治療を行うことができる。	
14	授業内容	運動麻痺について	運動麻痺の治療について復習しておく。
	到達目標	運動麻痺についての治療を行うことができる。	
15	授業内容	まとめ	本科目で復習した内容の治療について復習しておく。
	到達目標	本科目で復習した内容の行うことができる。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	救急処置実習	単位数	1単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	秋津　知宏	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的

傷病者や怪我人に対する応急処置・救急処置を理解し、かつ実際に実施できる能力を身につけることを目的とします。

到達目標

疾病・疾患を理解することができる。
疾病・疾患に対し適切な判断をすることができる。
応急手当・救急処置を実施することができる。

授業の内容

赤十字基礎口臭や救急法講習で行われている内容に沿って学びます。
応急手当・処置が必要な怪我や病気等について学びます。
怪我や病気等の発生時に必要な応急手当・処置について学びます。
テーピング等の固定材料を使用して固定法を実施します。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の4/5以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（実技試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

参考文献・図書

赤十字救急法基礎講習　第5版
赤十字救急法講習
CGと実写動画で覚えるテーピングナビ

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、手当の基本 手当の基本を学ぶ	手当の基本を復習する
	到達目標	手当の基本を理解することができる	
2	授業内容	応急手当・救急処置 1 一次救命処置について学ぶ	応急処置を予習しておく 一次救命処置を復習する
	到達目標	一次救命処置を理解することができる	
3	授業内容	応急手当・救急処置 2 外科的応急処置について学ぶ	外科的疾患を予習しておく 外科的応急処置を復習する
	到達目標	外科的応急処置を理解するができる	
4	授業内容	応急手当・救急処置 3 急病とその対処法について学ぶ	緊急を要する疾患を予習しておく 急病とその対処法を復習する
	到達目標	急病とその対処法を理解することができる	
5	授業内容	応急手当・救急処置 4 怪我等に対する応急手当について学ぶ	骨折・脱臼、開放性損傷を予習しておく 怪我等に対する応急手当を復習する
	到達目標	怪我等に対する応急手当を理解することができる	
6	授業内容	応急手当・救急処置 5 搬送・救護について学ぶ	搬送時の注意を予習しておく 搬送・救護を復習する
	到達目標	搬送・救護を理解することができる	
7	授業内容	確認試験 応急手当・救急処置の内容について確認・復習する	これまでの内容について復習しておく 応急手当・救急処置を復習する
	到達目標	応急手当・救急処置の内容を習得している	
8	授業内容	テーピング・固定 1 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節のテーピング･固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定を行うことができる	
9	授業内容	テーピング・固定 2 足関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	足関節の解剖を予習しておく 足関節のテーピング･固定を復習する
	到達目標	足関節のテーピング・固定を行うことができる	
10	授業内容	テーピング・固定 3 膝関節のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	膝関節の解剖を予習しておく 膝関節のテーピング･固定を復習する
	到達目標	膝関節のテーピング・固定を行うことができる	
11	授業内容	テーピング・固定 4 大腿部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	大腿部の解剖を予習しておく 大腿部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	大腿部のテーピング・固定を行うことができる	
12	授業内容	テーピング・固定 5 腰部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	腰部のテーピング・固定を行うことができる	
13	授業内容	テーピング・固定 6 肩部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	肩部の解剖を予習しておく 肩部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	肩部のテーピング・固定を行うことができる	
14	授業内容	テーピング・固定 7 肘部のテーピング・固定について実技を交えて学ぶ	肘部の解剖を予習しておく 肘部のテーピング･固定を復習する
	到達目標	肘部のテーピング・固定を行うことができる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本実習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実習の内容についての技術を習得している	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅰ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	加藤　雄士	E-mail			実施時期	３年　　後期	

授業の目的

国家試験の「解剖学」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる能力を完璧化することを目的とします。

到達目標

国家試験における解剖学の内容を理解する。

授業の内容

国家試験対策授業

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

授業出席時間が授業時間数の 2/3 に満たない場合には期末試験の受験資格がなくなる。

欠席の超過分の補講は一切行わないので注意すること。

評価対象

①出席・受講態度（無断途中退出等）②小テスト③中間テスト④期末試験

テキスト

この授業での指定のテキストは設けていませんが、以下の参考図書を参考にしてください。

参考文献・図書

1. 『プロメテウス解剖学アトラス』　医学書院
2. 『解剖学講義』　南山堂
3. 『生理学テキスト第 7 版』　文光堂
4. 『イラストでまなぶ生理学第 2 版』　医学書院
5. 『人体の正常構造と機能』　日本医事新報社
6. 『健康と病気のしくみがわかる　解剖生理学』　西村書店

オフィスアワーについて

曜日：時間が空いていれば随時可能、e-mail でも対応可

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション	
	到達目標		
2	授業内容	問題演習①細胞・組織	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
3	授業内容	問題演習②骨	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
4	授業内容	問題演習③骨	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
5	授業内容	問題演習④筋	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
6	授業内容	問題演習⑤筋	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
7	授業内容	問題演習⑥脈管	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
8	授業内容	問題演習⑦脈管	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
9	授業内容	問題演習⑧内臓	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
10	授業内容	問題演習⑨内臓	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
11	授業内容	問題演習⑩内臓	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
12	授業内容	問題演習⑪神経	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
13	授業内容	問題演習⑫神経	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
14	授業内容	問題演習⑬神経	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	
15	授業内容	問題演習⑭感覚器	授業内で配布された講義プリントおよび復習プリントを用いて行う
	到達目標	上記の内容を理解する。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅱ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	伊藤　千展	E-mail			実施時期	３年　　後期	

授業の目的

国家試験の「生理学」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる能力を完璧化することを目的とします。

到達目標

国家試験の生理学において８割以上正解し、国家試験に合格すること。

授業の内容

（1）生理学で出題される知識の確認

（2）演習試験で出題された問題の確認

（3）国家試験過去問題の演習

（4）模擬試験問題の演習

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

学期末の期末試験を実施し、60 点以上で合格とします。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

テキスト

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション問題演習　生理学の基礎	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	内部環境、細胞小器官、体液量、浸透圧、浸透と拡散についてなど、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
2	授業内容	問題演習　循環	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	血液の細胞成分、血漿中の電解質など、血液凝固と線維素溶解、大循環と小循環、心電図と心周期、リンパの働きなど、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
3	授業内容	問題演習　呼吸	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	外呼吸と内呼吸、肺胞換気量・死腔量・予備呼気量などの概念、酸素解離曲線、酸塩基平衡など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
4	授業内容	問題演習　消化と吸収	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	各消化管の運動、消化酵素、消化液、各栄養素の分解と吸収など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
5	授業内容	問題演習　代謝	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	三大栄養素の代謝、基礎代謝量、呼吸商など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
6	授業内容	問題演習　体温	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	核心温度、外殻温度、体温調節中枢、ふるえ産熱と非ふるえ産熱、産熱を増大するホルモン、	
7	授業内容	問題演習　内分泌、排泄	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	体液量、浸透圧、pH の概念、糸球体濾過量、バゾプレッシンやレニンーアンジオテンシン系の調節、ホルモンの種類、各ホルモンの分泌する場所と効果器など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
8	授業内容	問題演習　生殖・成長と老化	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	卵胞期、排卵、黄体期について、ホルモンとその作用、加齢変化、高齢者で保たれる機能と低下する機能など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
9	授業内容	問題演習　神経	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	静止電位、脱分極、各反射の反射弓、脳の部位による機能分類、自律神経系など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
10	授業内容	問題演習　筋・運動	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	筋の分類、収縮の仕組み、運動単位、運動ニューロンの支配する筋線維、固有受容器の働き、反射など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
11	授業内容	問題演習　感覚	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	感覚受容器、伝導路、味覚・聴覚・平衡覚・視覚など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
12	授業内容	問題演習　生体の防御機構	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	非特異的防御機構と特異的防御機構、免疫と炎症など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
13	授業内容	問題演習　身体活動の強調	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	気候順化、高地順化、日内リズム、フィードバックによるホメオスタシスなど、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
14	授業内容	問題演習　総合	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	これまでの復習とまとめ	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅲ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	田口　辰樹	E-mail		実施時期	３年　　後期		

授業の目的

国家試験の「臨床医学各論」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる知識を完璧化することを目的とします。

到達目標

国家試験で出題頻度の高い分野を中心に学習し、臨床医学各論で **70%以上得点**することを目標とする。

授業の内容

授業は過去の国家試験等を用いて問題演習形式で行い、問題を解いた後に解答を導くのに必要な基礎知識を含めて解説を行う。なお、授業を受けるにあたって当該範囲の内容について必ず予習をして授業に臨むこと。また、授業後は必ず復習を行い知識の整理と定着を行うこと。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。
※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。
※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

評価は期末試験で評価し、60%以上の得点で合格とする。

テキスト

・『鍼灸医学演習テキスト』　明治東洋医学院編集
・『臨床医学各論』　東洋療法学校協会編
・２年次に履修した臨床医学論の授業配布プリント

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：　金曜日
時間：13 時 00 分～14 時 00 分、16 時 00 分～17 時 00 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度を目安）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション・問題演習 【感染症】・【神経・筋疾患①】	本日授業を行った範囲の復習 第 2 回の範囲の予習
	到達目標	【感染症】・【神経・筋疾患①】に関する重要事項を理解する。	
2	授業内容	問題演習 【神経・筋疾患②】	本日授業を行った範囲の復習 第 3 回の範囲の予習
	到達目標	【神経・筋疾患②】に関する重要事項を理解する。	
3	授業内容	問題演習 【神経・筋疾患③】・【呼吸器・胸壁疾患】	本日授業を行った範囲の復習 第 4 回の範囲の予習
	到達目標	【神経・筋疾患③】・【呼吸器・胸壁疾患】に関する重要事項を理解する。	
4	授業内容	問題演習 【循環器疾患①】	本日授業を行った範囲の復習 第 5 回の範囲の予習
	到達目標	【循環器疾患①】に関する重要事項を理解する。	
5	授業内容	問題演習 【循環器疾患②】	本日授業を行った範囲の復習 第 6 回の範囲の予習
	到達目標	【循環器疾患②】に関する重要事項を理解する。	
6	授業内容	問題演習 【消化器疾患】	本日授業を行った範囲の復習 第 7 回の範囲の予習
	到達目標	【消化器疾患】に関する重要事項を理解する。	
7	授業内容	問題演習 【泌尿生殖器疾患】・【血液・造血器疾患】	本日授業を行った範囲の復習 第 8 回の範囲の予習
	到達目標	【泌尿生殖器疾患】・【血液・造血器疾患】に関する重要事項を理解する。	
8	授業内容	問題演習 【代謝・栄養疾患】・【内分泌疾患】	本日授業を行った範囲の復習 第 9 回の範囲の予習
	到達目標	【代謝・栄養疾患】・【内分泌疾患】に関する重要事項を理解する。	
9	授業内容	問題演習 【自己免疫疾患①】	本日授業を行った範囲の復習 第 10 回の範囲の予習
	到達目標	【自己免疫疾患①】に関する重要事項を理解する。	
10	授業内容	問題演習 【自己免疫疾患②】	本日授業を行った範囲の復習 第 11 回の範囲の予習
	到達目標	【自己免疫疾患②】に関する重要事項を理解する。	
11	授業内容	問題演習 【運動器疾患①】	本日授業を行った範囲の復習 第 12 回の範囲の予習
	到達目標	【運動器疾患①】に関する重要事項を理解する。	
12	授業内容	問題演習 【運動器疾患②】	本日授業を行った範囲の復習 第 13 回の範囲の予習
	到達目標	【運動器疾患②】に関する重要事項を理解する。	
13	授業内容	問題演習 【運動器疾患③】	本日授業を行った範囲の復習 第 14 回の範囲の予習
	到達目標	【運動器疾患③】に関する重要事項を理解する。	
14	授業内容	問題演習 【皮膚・頭頸部疾患】・【精神・心身医学的疾患】	本日授業を行った範囲の復習 第 15 回の範囲の予習
	到達目標	【皮膚・頭頸部疾患】・【精神・心身医学的疾患】に関する重要事項を理解する。	
15	授業内容	まとめ（評価を含む）	
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅳ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	丸茂　栄士郎	E-mail			実施時期	３年　　後期	

授業の目的

国家試験の「臨床医学総論」「東洋医学臨床論（現代）」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる能力を完璧化することを目的とします。

到達目標

国家試験の「臨床医学総論」「東洋医学臨床論（現代）」で問われている現代医学的な病態および治療について、知識の整理を図るとともに、試験問題に対応できる能力を養う。

授業の内容

１．授業方法は、鍼灸医学演習テキスト・板書・プリントを用いて講義形式で行います。
２．国家試験過去問・出題が予想される問題を解いて解説をします。
３．自学自習（予習・復習）には演習テキスト・プリントを活用してください。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。
※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。
※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

期末試験（100 点満点）で評価します。単位認定は 60 点以上です。

テキスト

「鍼灸医学演習テキスト　上・下巻」　明治東洋医学院

参考文献・図書

「徹底攻略！　国家試験過去問題集　はり師きゅう師用」医道の日本社

オフィスアワーについて

曜日：
時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 臨床医学総論問題演習①	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
2	授業内容	臨床医学総論問題演習②	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
3	授業内容	臨床医学総論問題演習③	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
4	授業内容	臨床医学総論問題演習④	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
5	授業内容	臨床医学総論問題演習⑤	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
6	授業内容	臨床医学総論問題演習⑥	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
7	授業内容	臨床医学総論問題演習⑦	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
8	授業内容	東洋医学臨床論(現代)問題演習①	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
9	授業内容	東洋医学臨床論(現代)問題演習②	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
10	授業内容	東洋医学臨床論(現代)問題演習③	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
11	授業内容	東洋医学臨床論(現代)問題演習④	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
12	授業内容	東洋医学臨床論(現代)問題演習⑤	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
13	授業内容	東洋医学臨床論(現代)問題演習⑥	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
14	授業内容	東洋医学臨床論(現代)問題演習⑦	事前に提示された問題を解き、問題の解答・解説を復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	
15	授業内容	まとめ(評価含む)	提示された問題を解き、復習して下さい。
	到達目標	提示された問題を理解し、正しく解答できる。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅴ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	田口　敬太	E-mail			実施時期	３年　　時間外	

授業の目的

国家試験の「東洋医学概論」「東洋医学臨床論（東洋）」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる能力を完璧化することを目的とします。

到達目標

国家試験と同等程度のレベルの問題を解き、70%以上が正解となるよう理解を深める。

授業の内容

この授業では、東洋医学概論と東洋医学臨床論（東洋）の国家試験対策として、重要事項の解説を行った後、問題を解き、その問題解説を行っていきます。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

・総授業時間数の 2/3 以上出席したものを評価対象とします。

・無断での途中退出についても**欠席扱い**とします。

・期末に筆記試験を行い、60%以上で単位が認定されます。

テキスト

・配布プリント

・鍼灸医学演習テキスト（上・下）

・東洋療法学校協会編「新版　東洋医学概論」「東洋医学臨床論」

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 東洋医学概論 1.　東洋医学の基礎～気・血・津液の生理	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
2	授業内容	東洋医学概論 2.　六臓、六腑、奇恒の腑	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
3	授業内容	東洋医学概論 3.　臓腑経絡論、病因論	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
4	授業内容	東洋医学概論 4.　病理と病症	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
5	授業内容	東洋医学概論 5.　病理と病証	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
6	授業内容	東洋医学概論 6.　診察法と治療法	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
7	授業内容	東洋医学臨床論 1.　診察と記録、施術の基礎	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
8	授業内容	東洋医学臨床論 2.　症候に対するアプローチ①	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
9	授業内容	東洋医学臨床論 3.　症候に対するアプローチ②	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
10	授業内容	東洋医学臨床論 4.　症候に対するアプローチ③ 疾患に対するアプローチ①	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
11	授業内容	東洋医学臨床論 5.　疾患に対するアプローチ②	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
12	授業内容	東洋医学臨床論 6.　疾患に対するアプローチ③	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
13	授業内容	東洋医学臨床論 7.　疾患に対するアプローチ④	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
14	授業内容	東洋医学臨床論 8.　高齢者、スポーツ領域	事前に配布する問題を解く（予習） 不明な点を確認する（復習）
	到達目標	問題解決について理解できる	
15	授業内容	東洋医学系　その他の問題　まとめ（評価含む）	
	到達目標	問題解決について理解できる	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅵ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	半田　由美子	E-mail		実施時期	３年　　時間外		

授業の目的
国家試験の「医療概論」「病理学」「衛生学」「公衆衛生学」「リハビリテーション医学」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる能力を完璧化することを目的とします。
到達目標
上記した科目について国家試験上記した科目について国家試験上記した科目について国家試験上記した科目について国家試験に必要な知識を習得することができる。
授業の内容
この授業では上記した科目について、配布される資料に基づき、解説を行います。
注意事項
※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。 ※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。
成績評価
授業時数の 3 分の 2 以上出席したものを評価対象とします。 期末筆記試験での評価を行います。
テキスト
医学演習テキスト　上巻・下巻
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日：金曜日 時間：16 時 30 分～17 時 30 分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 医療概論（全般）	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
2	授業内容	関係法規（全般）	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
3	授業内容	衛生・公衆衛生 概念、健康の保持増進と予防、ライフスタイルと健康	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
4	授業内容	衛生・公衆衛生 健康と環境、産業保険、精神保健、母子保健	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
5	授業内容	衛生・公衆衛生 成人・高齢者保健、感染症対策、消毒法	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
6	授業内容	衛生・公衆衛生 疫学、保健統計、国際保健	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
7	授業内容	病理学概論 病理学の基礎、病因	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
8	授業内容	病理学概論 細胞傷害と修復	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
9	授業内容	病理学概論 循環障害、炎症	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
10	授業内容	病理学概論 免疫異常、腫瘍	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
11	授業内容	リハビリテーション医学 リハビリテーションの概要、障害の評価	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
12	授業内容	リハビリテーション医学 治療、運動学、脳卒中のリハビリテーション	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
13	授業内容	リハビリテーション医学 脊髄損傷・切断・小児のリハビリテーション	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
14	授業内容	リハビリテーション医学 呼吸器・循環器・運動器疾患・神経疾患のリハビリテーション	学んだことを復習をしておく。
	到達目標	内容について知識を習得している。	
15	授業内容	まとめ（評価含む） 本授業の内容について確認・復習をする。	
	到達目標	本授業の内容について知識を習得している。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅶ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	矢島　道子	E-mail		実施時期	３年　　時間外		

授業の目的

国家試験の「はりきゅう理論」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる能力を完璧化することを目的とします。

到達目標

国家試験のはり理論（10問）、きゅう理論（10問）において８割以上正解し、

国家試験に合格すること。

授業の内容

（1）はり理論、きゅう理論の知識の確認

（2）演習試験問題で出題された問題の確認

（3）国家試験過去問題の演習

（4）はりきゅう理論関連科目の確認

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の2/3以上の出席。

成績評価

1）第15回に実施する期末試験で評価します。

2）　期末試験は全て４択問題を出題します。

3）2/3以上出席しないと、評価認定をおこないません。

4）　授業態度を評価に加えます。

テキスト

東洋療法学校協会編　「はりきゅう理論」

鍼灸医学演習テキスト　下巻

参考文献・図書

医道の日本社　国家試験問題集　はり師きゅう師用

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 鍼・灸の基礎知識	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	毫鍼・古代九鍼、灸の材料、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
2	授業内容	基本的刺鍼方法、灸術の種類	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	刺鍼の術式、基本 17 手技、有痕灸・無痕灸など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
3	授業内容	基本的刺鍼方法、灸術の種類、特殊鍼法、鍼灸の臨床応用	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	基本 17 手技、小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、鍼通電、刺激量、感受性、適応と禁忌など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
4	授業内容	鍼灸の臨床応用、リスク管理	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	刺激量、感受性、適応と禁忌、医療過誤と副作用、感染症対策など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
5	授業内容	鍼灸治効の基礎	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	鍼刺激・灸刺激の受容と伝導、感覚の中枢内殿道路、鍼灸刺激と反射、鍼鎮痛、血流改善など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
6	授業内容	鍼灸治効の基礎	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	鍼刺激・灸刺激の受容と伝導、感覚の中枢内殿道路、鍼灸刺激と反射、鍼鎮痛、血流改善など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
7	授業内容	鍼灸治効の基礎	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	鍼刺激・灸刺激の受容と伝導、感覚の中枢内殿道路、鍼灸刺激と反射、鍼鎮痛、血流改善など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
8	授業内容	鎮痛のまとめ	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	オピオイド系鎮痛、ゲートコントロール理論、DNIC など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
9	授業内容	治療的作用	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	治療的作用など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
10	授業内容	関連学説	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	関連学説など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
11	授業内容	関連学説	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	関連学説など、国試の過去問および練習問題の実践と解説	
12	授業内容	総合演習	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	国試の過去問および練習問題の実践と解説	
13	授業内容	総合演習	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	国試の過去問および練習問題の実践と解説	
14	授業内容	総合演習	本講義内容を復習しておく。
	到達目標	国試の過去問および練習問題の実践と解説	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標		

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	総合鍼灸医学Ⅷ	単位数	１単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	小田原　崇文	E-mail		実施時期	３年　　時間外		

授業の目的

国家試験の「経絡経穴学」の科目について、問題演習により理解を深め、試験問題に対応できる能力を完璧化することを目的とします。

＊全コース共通（国試対策）

到達目標

経絡経穴概論の国家試験対策として問題演習を行う。

授業の内容

経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱの総復習を行う。

経絡経穴概論の問題演習を行う。

注意事項

※医療人として相応しい人間性（知識・技能）の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合もありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、**無断での途中退出や早退は「欠席」となります。**注意してください。

※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

※受験資格：本授業の 2/3 以上の出席。

成績評価

・受験資格:2/3 以上の出席

・評価　　:筆記試験・授業態度 60 点以上で合格

テキスト

経絡経穴概論　医歯薬出版

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間：　　時　　分～　　時　　分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【鍼灸学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 総復習･問題演習1･確認テスト	流注・接続部ついて復習する。
	到達目標	流注・接続部について理解する。	
2	授業内容	総復習･問題演習2･確認テスト	流注・接続部ついて復習する。
	到達目標	流注・接続部について理解する。	
3	授業内容	総復習･問題演習3･確認テスト	流注・接続部ついて復習する。
	到達目標	流注・接続部について理解する。	
4	授業内容	総復習･問題演習4･確認テスト	骨度法ついて復習する。
	到達目標	骨度法について理解する。	
5	授業内容	総復習･問題演習5･確認テスト	骨度法ついて復習する。
	到達目標	骨度法について理解する。	
6	授業内容	総復習･問題演習6･確認テスト	骨度法ついて復習する。
	到達目標	骨度法について理解する。	
7	授業内容	総復習･問題演習7･確認テスト	要穴ついて復習する。
	到達目標	要穴について理解する。	
8	授業内容	総復習･問題演習8･確認テスト	要穴ついて復習する。
	到達目標	要穴について理解する。	
9	授業内容	総復習･問題演習9･確認テスト	要穴ついて復習する。
	到達目標	要穴について理解する。	
10	授業内容	総復習･問題演習10･確認テスト	要穴ついて復習する。
	到達目標	要穴について理解する。	
11	授業内容	総復習･問題演習11･確認テスト	取穴法ついて復習する。
	到達目標	取穴法について理解する。	
12	授業内容	総復習･問題演習12･確認テスト	取穴法ついて復習する。
	到達目標	取穴法について理解する。	
13	授業内容	総復習･問題演習13･確認テスト	取穴法ついて復習する。
	到達目標	取穴法について理解する。	
14	授業内容	総復習･問題演習14･確認テスト	奇経八脈・奇穴ついて復習する。
	到達目標	奇経八脈・奇穴について理解する。	
15	授業内容	総復習･問題演習15･確認テスト	奇経八脈・奇穴ついて復習する。
	到達目標	奇経八脈・奇穴について理解する。	

【鍼灸学科授業シラバス】

科目名	鍼灸総合演習Ⅱ	単位数	１単位	授業形態	演習	実務経験の有無	㊒ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	福田　文彦	E-mail		実施時期	３年　　時間外		

授業の目的
3 年間の学習の総括として、鍼灸の研究（基礎・臨床・調査）・現場で用いる臨床技能（演習・実習）・国家試験に対応した学習等を行い、総合的な能力を修得する事ことを目的とする。
到達目標
3 年間の総括として、自らの興味がある領域の学習を深めるとともに、生涯教育として鍼灸臨床の学びを深める基礎を確立する。
授業の内容
卒業研究(臨床コース、学習コース) ・臨床コース：各担当教員の指導のもと、自らの興味がある領域の研究（基礎・臨床・調査）を行う。 ・学習コース：各担当教員の指導のもと、国家試験に対応した学習等を行う。
注意事項
卒業研究については、担当教員の指示に従って履修して下さい。
成績評価
担当教員が提示する評価項目(卒業研究論文、レポート、臨床実技能力の確認)で評価します。
テキスト
各指導教員により指示
参考文献・図書
特になし
オフィスアワーについて
随時
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。